

第3回男鹿市総合教育会議議事録

- 1 日時 平成28年2月10日(水) 10:00～11:10
- 2 場所 男鹿市役所本庁舎3階第1会議室
- 3 出席者 男鹿市 市長 渡部幸男
男鹿市教育委員会 教育長 鈴木雅彦
委員 目黒恵子
委員 角崎紘二
委員 清水富喜子
委員 山本貴紀

4 協議事項

- (1) 男鹿市総合計画(素案)について
- (2) 男鹿市教育大綱の推進に係る取り組み状況について

5 会議録

●事務局

おはようございます。定刻になりましたので、ただ今から平成27年度第3回男鹿市総合教育会議を開催いたします。私、総務課長の藤原でございます。暫くの間進行を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

初めに、渡部市長よりあいさつをお願いいたします。

●市長

皆さんおはようございます。今日はご多用のところ男鹿市総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。

市では教育の場を広めるという意味で、大学との連携に努めております。既に、県内の国際教養大学、秋田大学、県立大学、ノースアジア大学とは協定しておりますが、先日も跡見女子学園とも連携協定いたしました。この2月23日には日本体育大学との連携協定も結ぶ予定をしております。

また、市のスポーツ賞授賞式の際には、昨年9月に男鹿市で集団行動の合宿をしていただきました日本体育大学の清原監督から講演をいただくとともに、日本体育大学との連携協定では松浪理事長からも講演をいただきます。様々な方からお聞きいただくことによって、教育の面でも刺激を受けると思いますので、よろしくお願い致します。

●事務局

ありがとうございました。それでは、このあとの進行につきましては本会も主宰いたします市長よりお願いいたします。

●市長

進行の方を務めさせていただきます。よろしくご協力お願いします。

お手元の次第にしたがって進めてまいります。3の協議事項であります。資料の1頁目から進めてまいります。始めの教育環境の整備であります。まずコミュニティ・スクールにつきまして、鈴木教育長の方からお話をお願いします。

●教育長

コミュニティ・スクールの推進につきましては、教育委員会の来年度の目玉の一つであります。今ここに書いてありますように、核となります学校運営協議会の委員、組織については、各学校で今月中には決定し、4月1日に備えるという形で進めております。米印は28年度実施予定の計画ということになりますが、まず何よりも学校課題の解決のために、地域の方々にどんどん学校に来ていただきまして、子ども達の支援を行っていただきたい。同時に地域の行事についても教えていただいて、学校、子ども達もどんどん地域の行事や、伝統・文化の継承も行っていきたい。特に総合的な学習の時間を通して進めていきたいと考えております。今日はひとつの事例の紹介になりますけども、次長からお願いします。

●事務局

「伝えたい、繋げたい、ナマハゲ文化」これは秋田公立美術大学の二木さんという学生さんが一昨日、月曜日に教育委員会に男鹿のなまはげをPRしたいということで、こういったものを卒業研究として作りましたということで説明にきていただきました。男鹿市の学生であれば非常に我々もすごいと思いましたが、この方は秋田市の方であります。それで、約80集落の中から30集落の伝統的な、なまはげのお面を、紙で折って作ることにしたとの事。これを是非小学校でも十分活用ができますので、小学生にも広げていけるようにできれば大変嬉しいということを言われました。このなまはげについては、全国的に認知度は高いわけでありまして、テーマ及び目的のところ、「認知度の低いなまはげの伝統的な応援」と書いてあります。補足いたしますと、なまはげそのものは、非常に認知度は高いわけですが、お面については何十種類もあるということについては、あまり全国的に広まっていないのではないかとということでした。この方はデザインを専攻する学生ですけども、分かり易いような形でお面を作れるか卒業制作として考えたということです。2枚目が30種類作ったものが載っております。入道崎から玉の池まで非常に難しいと思いますが、複雑で立体的なお面のデザイン化して作るということは、やはりそれなりの技術が必要だと思えます。ちょっと無理を言って1ついただきました。実際はA3の紙に設計図を書いていまして、山折り、谷折りを折りでこういう形になるということで、2つのパーツからできています。これは湯の尻のお面ですが、小学校5、6年生ぐらいも作れると思えます。

それで、私が何を考えたかと言いますと、おそらく目にするなまはげは、観光のお面が結構多いと思えますが、例えば入道崎、湯本、湯ノ尻、北浦2区、相川、真山とか地区ごとに特徴的なお面がある事を、北陽小学校学区の子ども達の中でも、知らない子ども達も多いのではないかと思います。だとすれば、このなまはげのお面を作ることから、なまはげのお面がなぜ地域ごとに違うのか、どういう歴史を辿ってこういう形になったのかということ、地域のなまはげの伝承をしている方から学校にきていただいて、それで説明をしてもらって作る。入道崎地区の子ども達は入道崎のお面を作り、湯ノ尻の子ども達は湯ノ尻のお面を作るということで、実際に地域の人たちからも、実際のお面と衣裳をつけて学校に来てもらって、なまはげの作法も含め子ども達に伝えてもらうことで、なまはげのお面一つからかなり地域を知る学習の広がり、深まりは大いに期待できると思えます。あとは学校のアイデア次第ということになりますけども、是非北陽小学校ではこれをこのあと校長先生に話を持ちか

けて進めていくことを考えております。これも地域の方々との繋がり、結びつきを考える上では大変有効な方法の一つではないかなと考えます。この学生さんにとっては時間がかかったようですが、これを子ども達に1枚、1枚配って作ってもらうということで、大変子ども達も楽しみながら学習を進めることができるのではないかなと思います。

これはひいては本日の資料の3頁になりますが、5番の芸術・文化・伝統の保護・継承まで十分繋がっていく可能性を秘めていると思いますので、小学生の段階からそういった知識だとかを身につけていく上では大変有効であると考えております。以上であります。

●市長

それでは、1番の教育環境の整備について事務局から説明してもらいます。

●事務局

では、教育環境の整備(1)コミュニティ・スクールの推進について説明をさせていただきます。平成26年の4月から2年間、男鹿南中学校区の3校が、文部科学省の「コミュニティ・スクール導入促進事業」というモデル事業を展開してまいりました。1年目の成果を踏まえまして、今年度の4月には全小中学校に学校運営協議会の母体となります準備委員会が設置され、年4回程度準備委員会を開催し、今年この2月中で最終の回を迎える予定であります。教育委員会におきましては、平成27年度をコミュニティ・スクールへの理解を深め運営組織を形づくる年度と位置付け、教育委員会職員が各校の準備委員会に行っております。趣旨等を理解していただくために教員研修等も実施してまいりました。先ほど教育長からもお話ありましたが、この2月中に最後の準備委員会が開かれますが、来年度の学校運営協議会の委員と組織等がほぼ決定することになっております。したがって、来年度の当初からこのコミュニティ・スクールが順調にスタートできる状況となっております。

取り組み内容については、これも先ほど説明ありましたが、学校課題を中心に地域を知る学習や地域の伝統文化の継承などに関する取り組みを推進してまいります。例えば、総合学習や各教科の授業に地域の方々からゲストティチャーとして参加していただく取り組みなどが考えられます。また、このコミュニティ・スクールの核となる学校運営協議会におきましては、委員の皆さんと学校と一緒に地域と共に学校づくりについて協議し、いろんなアイデアを出し合いながら、よりよい学校をつくるための熟議を通してこの取り組みを推進してまいります。そういう意味で一つの例でございますが、船川第一小学校は、3つの部会を考えておきまして、学校安全部会では、登校時の見守りや避難訓練の引き渡しなど。環境整備部会では、学校農園の整備や畑作栽培の支援。学習支援部会では、先ほどもお話ししました地域の講師の方々が授業やクラブ活動に参加をするような組織をもとに取り組みを進めていく計画であり、この学校運営協議会を核に地域から学校支援ボランティアを募集するとともに、地域の関係団体と連携をして取り組みを進めてまいります。以上であります。

(2) 学力向上、運動能力の向上であります。資料に書いてある通りですが、医学部プロジェクトでは、7月に児童生徒が秋田大学医学部を訪問しており33名が参加をしております。光通信学習教室夏季講座は、基礎講座の参加率が77.9%でありました。小学校陸上教室、小学校泳力育成教室も実施しております。これも前回の会議で報告した内容であります。前回の会議のあと、これまで行われたものとしたしましては予備校の講師が直接指導

する土曜教室を4公民館で12日間実施しておりまして、こちらの参加率は29.4%になっております。また、光通信学習教室冬季講座に関しましては、4中学校で6日間実施、35.9%の参加率となっております。このあと小学校6年生を対象に中学準備教室を春休み中に2日間、医学部プロジェクト「男鹿みなと市民病院訪問」を体験学習を交えた形で、春休み中の1日実施する計画であります。

(3)の小中学校施設の計画的な整備であります。船川第一小学校の校舎棟大規模改修工事、本日教育委員の皆様には校舎ご覧になっていただきましたけれども、2月末に完成する予定であります。来年度は船川第一小学校の体育館を改築いたします。また、夏休みの前後の工事にはなりますが、北陽小学校体育館の吊り天井撤去工事を実施する計画であります。以上であります。

●市長

ただいまの説明で皆さんからご意見をお伺いしたいと思います。

●目黒委員

4月からコミュニティ・スクールが始まります。以前より各種ボランティア活動で、子供たちや学校のために消極的にご協力を頂いて参りました。それらを核にしながら学校との連携がより緊密になればと思っております。市長としてどのように捉えてますでしょうか。

●市長

私は、今までにない取り組みと考えております。学校の運営に地域の方が入るということが一つの特徴ですから、先ほどの説明では確かに委員がおっしゃったみたいな安全部会という格好になっていきますけど、それ以外にもなまはげの例なんか、学生がこういうのをむしろ地域の方々に提案いただいたりして、伝統行事というのを学ぶ直接の機会になればいいと思います。また、学校を通して地域の方々にお知らせするというのも、例えばよく言われるのは、防災教育は子ども達に教えることによって親に伝わって、地域にも伝わるとか、そういうようなことも出てくると思います。絶対今やっているのをそのままということではなくて、幅を広げていきたいと思っております。このような事は、各学校の主体的な取り組みになりますので、良い事例をたくさん紹介しながら進めていけば、お互いに良い方向にもっていけるのではないかと思います。

●角崎委員

私個人では順調にコミュニティ・スクールの準備は推移している気がいたします。28年度からスタートするわけですが、よりよい学校を創り上げてほしいと思っております。教育委員の視察で先進校を見学いたしましたが、私が感じたのは校長先生の関わり方がコミュニティ・スクールの左右している気がします。ですから、校長先生の研修会もあるようですので、校長先生方の指導をよろしくお願ひしたい。それから、市長は非常にコミュニティ・スクールに力を入れているというのを私たちは感じていますので、どうか教育委員会をバックアップしてもらい、さらにコミュニティ・スクールをうまく存続できるようにお力添えを願ひたい。できれば将来こういうコミュニティ・スクールを創りたいという市長の考えがあればお聞かせ願ひたいと思ひます。

●市長

今申しましたが、地域の方々と学校と保護者の方も当然入っているわけですが、地域の方々がやっておられることを文化だけではなくて、様々な健康志向の活動など、今市が取り組んでいることについて、学校や保護者そして地域の方々が一緒にやることによって、よりそれが幅広く広がっていくと考えております。

実際の組みとしてチャレンジデーというのが、5月の最終水曜日に全市一斉に、できるだけ多くの方に参加いただいて、1日15分以上運動して健康に対する意識を高めるようにやっております。これも、こういうコミュニティ・スクールを通すことによって、みんなが健康志向、例えば「歩いて暮らせる町づくり」というのが市民に広く伝わり、子ども達を通してのふれ合いによって、市民の方にも繋がっていくと考えております。市の課題についても人口問題についても、コミュニティ・スクールということをやることによって、みんなで育てるという機運が高まればなと考えております。

●山本委員

コミュニティ・スクールのことですが、一度県外に出たとしても、いずれ男鹿に戻ってきたいと思わせる動機づけにもなると思う。そうすると、仕事が無いから戻って来ないじゃなくて、ある意味ここに戻ってくることによって、こういう環境があるから自分で仕事をつくるというようなイメージ展開になっていけば、このコミュニティ・スクールが絶対生きてくると思う。5年後、10年後、20年後のことを考えると、こういう環境で我々が育ったというのを自負しながら大人になっていくわけですから、それにまた戻ってきたいと思うようなことになってくれば、当然男鹿市に住む動機づけにも繋がってくるのかなと。そういうふうに思っていますので、今バルーンを上げている状態で、持続可能、継続するためのいろんなことはどんどんやっていかなければいけないと、教育委員会含めてみんなでやっていかなければいけないと思っています。

●市長

子ども達が戻ってきて、特に起業するということまでできれば本当に望ましい姿ですよ。ね。

●清水委員

この地域の方々から先生になっていただいて、いろんな伝統文化とかを勉強した子ども達が、学習発表会で発表する学校と、やっていない学校が今まで見ていて感じられた。ですから、統人行事にしても脇本山どんど保存会の行事にしても、それを見たことのない親というのはいると思う。今子ども達がこういうものを学んでいるということを学習発表会で発表すると、それを地域の人たちが見ることによって、さらにまた力がいただけるのではないかなと思うので、そういう方針で発表の場を設けていただきたいなと思います。

●教育長

まず我々の思いはやがては地元、男鹿に戻ってきて男鹿のために頑張りたいと、そういう高い志を持った人材を育成するというのが教育に課された大きな使命だと思います。市の総合計画の策定委員会の際も、日本政策金融公庫秋田支店の方からそういうことを是非小学校、中学校でもやっていただきたいというご意見もいただきました。小学校、中学校で起業

についてまではちょっと難しいかもしれませんが、キャリア教育の中で小学校、中学校の9年間を通して地域の方から学ぶ、地域のいろんな事業所等に行ってみて、職場体験をするということやっていますので、それをもう少し縦の流れの中で、全体の設計図を考えながらより男鹿のことを知る。男鹿にはどういった企業があって、どういうことに取り組んでいるかということをもっと少し体験的に知るようなキャリア教育の持っていく方というのを、学校と一緒に考えながらより地域を知る。やがては自分も男鹿に戻って、男鹿のために尽くしてというような志を、そこまで高められるようなキャリア教育をコミュニティ・スクールということも含めてやっていきたいということで考えております。

それから、学習発表会は、おそらく唯一1年間の中で一番学校に地域の方が来られる日だと思います。保護者以外にも家族、祖父母もたくさんいらっしゃいますので、そういった方々にも地域に関する学習の成果を発表するということは大変大事だと思います。統人行事でも、脇本の山どんどでもいいですけども、やっている学校とそれがこれからという学校もありますので、地域に密着した学習というのはもっともっとこれから数が多くなると思います。学習発表会で子ども達にも発表の場を提供するというのは大事だと思いますので、学校にも伝えていきたいと思います。

●市長

国民文化祭のときに詩吟を発表して、詩を子ども達で作って発表しました。こういう事が地域の行事に密着することになりますから、一つのコミュニティ・スクール的な要素になります。

●角崎委員

あれはよかったですね。

●教育長

船川第一小学校と船川南小学校が国文祭のときに地域のジオパークに関することを調べて発表するということがありまして、非常に好評でした。外にも発信していくということをどんどんこれからもまた設定していけばいいなと感じます。

●市長

1番の教育環境の整備についてはよろしいでしょうか。何かございますか。

それでは、次の地域間交流の機会充実と国際交流の推進について事務局から説明をお願いします。

●事務局

でははじめに(1)のふるさとに生きる意欲の喚起について説明を申し上げます。男鹿・春日井市児童交流学習会は、8月に春日井市児童が本市を、10月に本市児童が春日井市を訪問する事業であります。また、小学校5年生を対象に「おがっこ宿泊体験学習事業」を実施とします。これは先程山本委員さんからも、ふるさとに戻ってくる動機づけ、そしてふるさとのことを知り、ふるさとをよくするために頑張れる子ども、そういったことにも繋がっていくものであります。現在小学校5年生で宿泊学習を行われておりますが、殆どの学校は岩城少年自然の家に行っております。しかしながら本市には、なまはげオートキャンプ場があり、ジオ関係のスポットなど、宝庫ともいえる地域であります。また、里暮らし体験塾も

できましていろんな可能性が出てまいりました。これまで2年ほどかけて学校と一緒に準備をしてまいりましたが、来年度からこれらの事業を実施していくことで準備が進んでおります。2頁にありますグローバル社会を見据えた人材の育成は、これまで全小中学校で国際教養大学との交流会を実施してきており、今年度も同様に実施しております。また、昨年度から美里小学校で、「小・中連携による英語コミュニケーション能力育成事業」を実施しております。先行モデル事業という位置付けでやっております、この成果を踏まえ来年度からは全部の中学校区で実施をしていく計画であります。

国際的視野に立った学習機会の提供については、ALTを講師とした英会話クラブということで、参加者は決して多くはありませんが、船越公民館で継続的に開催しております。以上であります。

●市長

ただいまの説明に対して何かご意見をお願いします。

●角崎委員

グローバル人材の育成というのは良く耳にするのですが、私が思う一番大事な点は、語学力、英語のコミュニケーション能力だと思っています。今非常に英語コミュニケーション能力を育成しているように思いますが、やっぱりグローバル人材を育てるとすれば、こういう英語を使ったコミュニケーション能力を高めなきゃいけないなと思っています。

●市長

国際教養大学の学生との連携内容も説明していただきたい。

●教育長

国際教養大学の留学生から各小中学校に10名前後きていただいて、子ども達との交流会、子ども達が英語で自分の学校のことなどを紹介したり、あるいは国際教養大学の学生と一緒にコミュニケーションを楽しむ内容となっている。また、冬休みに希望者が国際教養大学を訪問して留学生と一緒に英会話を行ったり、大学の施設を見学したり、どんどん自分から留学生に話をするということで進めております。ほかに新しい取り組みもできればいいなということも教育委員会で考えているところであります、来てもらう交流会、教養大に行く体験的な活動に、プラスするものがあれば、子ども達の語学力もどんどん向上していくと思います。

●角崎委員

前に市長さんも話していたけども、ネイティブイングリッシュに触れる機会を増やしていただければいいと思います。

●山本委員

留学生に五風でやっているなまはげ太鼓を見てもらい、男鹿の魅力を発信していく事も必要ではないかと思う。興味ある学生は泊まって石焼料理食べて、なまはげ太鼓見て、温泉に浸かってという感じで秋田の男鹿でなまはげという部分が絡んでくる。敢えてこちらで仕掛けるのもひとつの方法だと思います。

●市長

柴灯祭りなんかは国際教養大学の学生の方が多くきています。

●教育長

あまり予算をかけない形で、市のバスを使ってきてもらったり行ったりしていますが、観光への広がりということで、どういうことが可能かどうかとも検討してみます。

●市長

観光に子ども達も一緒に行って、子どもが説明するとか、そうすると子ども達も国際案内人になる第一歩ですよ、教室だけじゃなくてバスで回りながら会話というのもいいかもしれないですね。

●清水委員

質問ですけれども、このおがっこ宿泊体験学習の授業についてですけれども、これは男鹿市でも例えばほかの市町村にPRをして誘致するというのに繋げていければ良いと思います。

●市長

是非そうしたいと思っています。そのためにはまず男鹿市の子供が活用して、よかったということが伝わっていければと考えています。

●清水委員

是非ここを体験学習の場としてもらいたいと思います。

●教育長

男鹿市の全小学校5年生が1泊2日の体験活動を行いますので、1、2年様子を見て、効果を見極めてから広げていこうかなと思います。

●山本委員

先生たちも異動されるわけで、自分が体験したことを違う学校に行ったときにこういうのをやりたいと思えば来ると思うし、体験学習のプログラムをいかにいいものにするかという事を周知することが大事だと思う。私も改めてびっくりしましたけども、先生方がいいと思えば子ども達ももっと教えていくと思うから、その部分が一番大事な肝になってくると思う。そうすると広がって、だんだん黙っていてもくるようになるかもしれない。得るものが多ければ当然そういう形で反響は出てくると思う。

●教育長

一番可能性があるのは、男鹿市の学校に勤務して実際に宿泊学習やった先生がほかの市町村に転出したときに、その学校でもやりたいというような流れをつくる事だと思います。

●市長

2点目よろしいでしょうか。3の生涯スポーツの推進について事務局説明をお願いします。

●事務局

それでは3の生涯スポーツの推進であります。(1)の「健幸都市」づくりの推進につきましては、チャレンジデー、ミニチャレンジデーの開催。市民スポーツ大会の開催等につきましては、平成28年度に引き続き開催していく予定にしております。28年度につきましては、新たにウォーキング大会の開催ということで、今現在10月29日、30日を予定しておりますが、秋田魁新報社との連携による「ふるさと再発見魁 in 男鹿」ということで現在計画を立てているところであります。

(2)のスポーツ団体の活動支援や既存施設の整備充実についてであります。こちらにつきましても、これまでクレイコートでありましたテニスコートを人工芝に改修する工事が12月10日に完了しております。平成28年度には市の中体連のテニス大会が開催するほか、色々な団体等への呼びかけを進めてまいりたいと思います。

(3)のスポーツ合宿や各種大会の誘致についてであります。なまはげカップ中学校バスケットボール大会は昨年12月28日から30日まで開催され、男子が12チーム、女子が10チーム参加をしております。この大会の提唱者であります、中村和夫さんからは大変お忙しい中12月の28日、1日だけではありましたが、ご出席いただきまして子ども達を前にご挨拶いただいております。また、男鹿なまはげ柔道錬成会が今年1月9日から11日まで開催をされ、約35団体の350人の方々から参加をいただいたという形であります。平成28年度につきましても、観光商工課や市体育協会、関係のスポーツ団体と連携しながらスポーツ合宿や各種大会の誘致に努めてまいりたいと思っております。以上です。

●市長

ウォーキング大会ですが、これは埼玉県東松山市で3日間やっている国際的なウォーキング大会で、3日間で10万人ぐらいの参加者があると聞いています。男鹿市のウォーキング大会は男鹿の景色を楽しんで歩いてもらいながら、健康にもつなげたいと思います。

●山本委員

ふるさと探訪というタイトルですか？

●市長

魁新報社で毎年、開催している行事で、今年は男鹿でウォーキングを組み入れてもらいたいとお願いしている。魁新報社と一緒にいろいろな意味で広報活動ができます。

●角崎委員

成功してほしいですね。

●市長

最後の柔道なまはげ錬成会というのは東北各県や新潟からも来ています。

第1回世界選手権の優勝者夏井昇吉9段の生誕の地ということをやキャッチフレーズにさせていただいて、生徒だけでなく熱心な保護者も一緒にいらっしゃいますので、1月というシーズンの開催は大変有難いことです。

生涯スポーツはよろしいでしょうか。続きまして4番生涯学習の推進について説明をお願いします。

●事務局

それでは、(1)読書活動の推進につきましても、新刊紹介、紙芝居、絵本等の読み聞かせなど、今年度に引き続きまして来年度も実施をしていきます。

(2)の育児体験などの教育の推進につきましても、平成27年度実施したところ小学生5名の参加でありました。こちらについては、よりPRを図りながら子ども達に多数の参加をいただくような形で推進を図ってまいりたいと思います。

次に3ページですが、(3)の学習機会の充実であります。各公民館での各種教室の開催につきましても、例年同様、来年度も進めてまいります。また、放課後の子ども教室につきまし

ても、28年度も継続して開催してまいります。三味線教室につきましては、6月20日から3月26日までで全14回を予定をしているところであります。現在8歳から89歳の方まで参加申し込みいただいている方々13名おります。この方々を2名の講師の方々に指導していただいているというものであります。以上であります。

●市長

ただいまの説明につきまして皆様からご意見をお願いします。

●目黒委員

赤ちゃんのふれ合いというのはどのような形で行っているのか。

●事務局

保健センターで実施しております赤ちゃんの定期検診時に抱っこするなどして、触れ合うことなどを通じ、命の大切さを学ぶものであり、7か月検診のときに実施させていただきました。

●市長

生涯学習はよろしいでしょうか。続きまして5の芸術・文化・伝統の保護・継承について説明をお願いします。

●事務局

(1)の文化財の適正な維持管理につきましては、平成28年度の脇本城跡保存整備事業ということで、28年度は誘導案内板、遺構説明板、遺構標識等の設置を進めてまいります。こちらにつきましては、現在文化庁と予算等について詰めている最中でありまして、それから昨年は10月20日に脇本城跡城歩きシンポジウムを開催いたしまして、思った以上の参加者があったという形になっております。

(2)のなまはげ文化や地域の「まつり」継承活動支援ということにつきましては、なまはげを含みます「来訪神行事」のユネスコ無形文化遺産へ提案であります。現在国の文化審議会にて提案の可否について審査中でありまして、それが通りますと28年3月に提案されることとなります。そちらの方につきましては、ユネスコでの審査としましては、平成29年11月頃の審査の予定となっております。ただ、提案が多ければ1年先延ばしになる可能性もあるということをお知らせを文化庁からは連絡をいただいているところであります。

(3)のジオパークの保全・活用につきましては、今年度総合案内看板の整備、それからガイドアプリの制作等を行いました。これらの整備と活用により、12月14日には再認定の決定をいただいたところであります。来年度につきましては、ジオガイドの養成として、今年度初級講座を受講した方が、来年度に上級講座を受ける形になっております。現在7人の方々が受講しております。現在のジオガイドとしましては、28人の方々がいらっしゃいますので、この講習を受ける方々が増えることでさらに充実していくものと思っております。以上です。

●市長

ただいまの説明につきまして、皆様からご意見をお願いいたします。

●角崎委員

脇本城跡で、最近城に対する関心が非常に高まっていると感じています。特に若い女子が

城に関心を持っているということニュースなどで見ますので、この機会に観光客の誘致に努力してほしいなと思います。昨年の城歩きシンポジウムで地元の住民がもう少し関心を寄せた方がいいと話してしまして、そうだなと思いました。脇本に住んでいる方は、一生懸命なんですが、もう少し住民の関心を高める必要があるんだろうと私も思いました。それからジオパークについてですが、魁新聞に載っていましたが、課題を克服して新たな取り組みもみられるなど、非常に高い評価を頂いたように思います。再認定されて私自身も喜んでいるのですが、ジオパークについて市長は将来的にどういう構想を持っているかお知らせ願えればと思います。以上です。

●市長

一つの例でありますけども、ジオパークの全国大会というのを毎年開催しておりますが、来年は東北のブロックで開催する予定であります。日本ジオパーク認定になって、次は世界にというふうにして高い目標を持ったんですが、この後ジオパークに加盟するところが世界的にも全国的にも増えてきまして、ジオパークのハードルも高くなっているのも事実であります。高い目標に向かって我々は1歩1歩進んでいくということで今回再認定を受けたことによってさらに次の再認定はもちろんでありますし、また今回高い評価をいただきながらも指摘もあり、それを受けたアクションプランを作成し、それに基づき進んでおります。

ジオというのは、大地は何も語らないのでジオガイドの育成が重要なポイントになります。また、一方例えばシェールオイルというのは女川層にたまっています。男鹿で実証実験でシェールオイルの試掘をしていますが、ジオとそういう産業との結びつきも学習になります。ジオは地質という感じに捉えられがちですが、例えば石焼料理というのも溶結凝灰岩、7千万年前の石だという触れ込みをして、ジオの関連の料理になると思います。ジオ絡みで見ればいろんなアピールもできるし、男鹿の場合はちょうど一番西が7千年前で大潟村までちょうど現代までの連続した動きが見られるという特徴もあります。そういう意味で連携を深めながらいろんなジオの中身を磨いていく必要があると思っております。また、ジオの研究につきましては、大学との連携、特に秋田大学の白石先生とか林先生の指導を受けながらジオの中身の研究を深めていきたいと思っております。

●教育長

12月14日の再認定は大変明るいニュースであり、ほっとしたところです。成果の一つとしては、教育委員会所管ということもありまして、学校との連携とか、教育関係のプログラムが充実しているというようなことで、高い評価を頂きました。その中で次のステップに向かって何が必要かと申しますと、ジオツアーをどういう形で拡大していくかということが一つのポイントになるかなと思います。どれだけ、市外、県外から観光も含めて呼び込めるかと。それがひいては市長のお話のように、産業の方までどう繋げていけるかということがこのあと4年間の大きな課題の一つになるかなと思います。加藤課長からジオパークガイド認定者が28人で来年度上級の講座に7人という、説明ございましたが、そういった方々を活用しながらジオツアーをどう形作っていくかPR含めて、その経済波及効果ということも大きなポイントになりますので、その視点からもまた考えていく必要があると思っております。

●山本委員

ジオの学習センターが若美庁舎にあります。県外からきた人はなかなかお目にかかる場所ではなく残念である。折角ああいうものあるんだけど、観光ルート上にないものだから見られないという。スタートの場所作りというのが大事であって、例えば複合施設を駅の周辺に作る予定があると思いますけども、観光的に言うとそこを起点にしてジオの資料館を作ってそこからスタートさせるという場所を提供することにより、ジオが生きてくると思う。

●清水委員

前にジオパークの観光バスに乗って見学をしたときに、これは本当に男鹿市の大きな観光の売りになるんだなと思ったんですけども、そのときに全く買い物が組み入れられてなかった。ただ名所、いろんな珍しいところを回って終わる。男性の方もいましたけど、中年の女性客が多かった。そうすると、家に帰って持っていくものがないというのが出まして、どこかに1カ所寄るような場所を、例えば梨の販売所でも、組み入れてコースを作ってもらえないかと私は思うんですけど、どんなものでしょうか。

●市長

ご指摘ありがとうございます。ちょっと宣伝になりますが、今山本委員が言われた男鹿駅周辺の複合施設というのはまさにおっしゃる施設になっています。男鹿のものが置いてある場所にして、さっき言っていた起点みたいなものを途中で入れてもいいわけで、同じような話を、「お山かけ」をやった方々からもあったんです。「お山かけ」してよかったけど、お土産を買う場所がなかったと言われたので、確かにまとまって男鹿のものというのは残念ながら今はないので、そういう場所にも活用できる施設になります。お土産というのは非常に重要な要素で、特に男鹿の場合は一つはなんととっても新鮮な海の町といういいイメージを持っていただいています。市内の魚屋さんはある意味で限られた方しか対象にされないの、種類も非常に限られたものしか置けないです。また季節、季節で今おっしゃっていただいた、例えばメロンだとか梨だとかあるいは新米だとかいろんなものを出せますし、また、そういった売場所があれば実際に作る方も増えてきてもらえば当然その生産者の方の収入が増える、現金収入が増えるので、男鹿市の一人当たりの所得を増やすことにも繋がると。そういう大変期待しております。男鹿は本当にいいイメージをみんな持っていただいているので、そこをいろんなジオのツアーだけでなく、いろんな男鹿においていただいた方々にそこに行ってください、男鹿のものを見ていただいて、ということで男鹿を売り込みたいということでもあります。

●目黒委員

以前、男鹿を1周するイベントに参加された秋田市の方が、話されて事ですが、「お昼のお弁当、男鹿に来たら男鹿のものが食べられると楽しみに参加しましたが、残念ながら期待外れだった」と伺いました。料金等もあるかと思いますが、観光地の男鹿のイメージを損なわないようお願いしたいものです。

●市長

そのお話もおっしゃる通りで、それは私自身もすごく感じていて、単なるお弁当でなくて地産地消弁当ということで強力にそれをお願いしております。なかなか実際できないケースもありますが、ただ、ワンコインバスときはバス弁ということで、下にはたはたフライ丼、

上にしょっつる焼きそばのバス弁ということでちょっと評判になりました。それ以外にもジ
オの全国大会に行くとお弁当の注文を取っているんですが、1種類じゃないですね。いくつ
もあって、地元のをとれるようになっていて、いらっしゃる方へのおもてなしを感じま
す。それから、なまはげバスケット柔道錬成会のお弁当も、子ども達ですからやっぱりポリ
ュームのあるもので、しかも地元のものでというお願いをしています。ほかにございませ
んでしょうか。それでは、教育大綱の推進に係る取り組みについては以上でよろしいでし
ょうか。あと、皆様からこれ以外でも何かありますでしょうか。よろしいですか。

今年度の予定どうなっておりますか。

●事務局

今年度につきましては、本会議の開催は予定しておりません。来年度以降事案があった段
階でお伝えするというような形になると思います。このような形で教育大綱の推進についま
しては、年に2回程度させていただきたいと考えております。

●市長

事務局何かありますか。

●事務局

特にございませぬ。

●市長

それではこれをもちまして総合教育会議を終わらせていただきます。貴重なご意見をたく
さんいただきましてありがとうございます。